

ブルンジ月報（２０２５年８月）

※以下は、ブルンジ主要メディア（RTNB、IWACU等）の記事取りまとめ。

1. 政治・外交

今月のンダイシミエ大統領の主要な動きは以下のとおり。

- 1日、日本の福島大使による表敬。前日の7月31日に署名された無償案件（食糧援助及び保健経社）やTICAD9について意見交換を行った。
- 8日、バルデ（Mamadou Dian Balde）UNHCR アフリカの角・大湖地域担当地域ディレクター一行による表敬。コンゴ（民）東部地域からブルンジに流入するコンゴ（民）難民の受け入れについて、ブルンジへの感謝が示されたほか、ブルンジ難民の帰還について意見交換がなされた。
- 16日、ブルンジ南東部のムソングァティにて行われた鉄道建設計画の定礎式に出席。本計画はムソングァティからコンゴ（民）東部のキンドゥまでを鉄道でつなぐもので、基礎調査は2026年半ばまでに完了する見込み。
- 19～23日、TICAD9参加のため大統領夫人及び外相と訪日。全体会合ではブルンジがソマリアの平和維持活動への参加やコンゴ（民）難民の受け入れを通じてアフリカの平和と安定に貢献していることを強調した。また、会合のマージンで石破総理や田中 JICA 理事長と会談を行い、日本はブルンジの発展を引き続き支援していくことが表明された。

内政に関し、

- 5日、新内閣発足。新首相には前財務大臣のンハホンフイエ氏が就任。外務大臣には前大統領府外交顧問のビジマナ氏が任命された。
- 30日、与党CNDD-FDDによる政権掌握20周年を記念するイベントが首都ギテガで行われた。同党は2005年の内戦終結以降、与党となっている。

外交に関し、

- 12～18日、ピエトロ・パロリン・ローマ教皇庁国務長官がブルンジを訪問。本年はバチカンとブルンジの外交関係樹立60周年にあたり、ブルンジのカトリック教徒が裨益する複数の合意文書が交わされた。
- 15日、約20名の投資家から成るカタール使節団がブルンジを訪問。ブルンジの農業、産業、雇用分野における投資について意見交換や視察が行われた。

2. 経済

- 7月31日、ブルンジ中央銀行は、中国からの輸入品についてはブルンジ国内でも中国元での支払いが可能となる旨発表。ブルンジが外貨不足で苦しむ中、本決定により中国からの輸入が更に促進されると歓迎する声がある一方、中国元が米ドルと比べて国際決済の通貨として弱いことや、中国への経済的な依存を指摘して警鐘を鳴らす声もある。

3. 開発協力

- 7月31日、日本の福島大使はシンギロ外相との間で2本の無償資金協力案件に署名した。一つ目は食糧援助に関するもので、小麦の供与により、「人間の安全保障」の理念に基づいてブルンジ国民一人ひとりの尊厳ある生活を実現するもの。もう一つは機材不足に悩むプランス・レジャン・シャルル病院に対する医療機材供与で、これにより一人でも多くの患者の生命を救うことを目的とするもの。

(了)